

1 基本方針

「大館市新斎場整備基本計画」に基づき、以下の方針を基に計画を進めます。

- (1) 将来の火葬需要に対応できる施設
- (2) 遺族や会葬者に配慮した施設
- (3) 安心・安全な施設
- (4) 環境への負荷を軽減する施設
- (5) 施設外観や周辺環境に配慮した施設

2 敷地概要

計 画 地：秋田県大館市柄沢字丸山下181ほか34筆

敷地面積：20,148.13 m²

用途地域：指定なし 防火地域：指定なし

建ぺい率：70% 容積率：200%

3 計画概要

3-1 建築概要

用 途：火葬場

構 造：鉄筋コンクリート造（火葬エリア）、木造（待合エリア）

階 数：地上1階 / 地下なし

建築面積：2,538.84 m²（建ぺい率：12.6%）

延べ面積：1,858.89 m²（容積率：9.23%）

建物高さ：最高9.3m

火葬炉数：4炉

駐車台数：105台（うち大型車両2台）

3-2 構造概要

耐震性能目標：構造体Ⅱ類、非構造部材A類、建築設備 甲類

基礎形式：杭基礎（既製杭）

構造形式：RC部 / 耐力壁付きラーメン構造、木造部 / 軸組工法

3-3 電気設備概要

受電方式：高圧（3相3線 6.6kV 50Hz）1回線受電

配電盤形式：屋内キュービクル式

非常用発電機：ディーゼル発電機 450kVa（8件/日×3日間の火葬対応想定）

3-4 機械設備計画

空調方式：電気式空冷ヒートポンプパッケージによる個別空調方式

特殊暖房：温水式床暖房

融雪設備：温水式ダクトヒーター、電気式パネルヒーター

換気方式：外気処理パッケージ及び排気ファン、全熱交換器（待合室）

給水方式：水道直結方式（上水系統）、受水槽方式（雑用水系統）

排水方式：浄化槽方式

給湯方式：電気温水器による局所方式

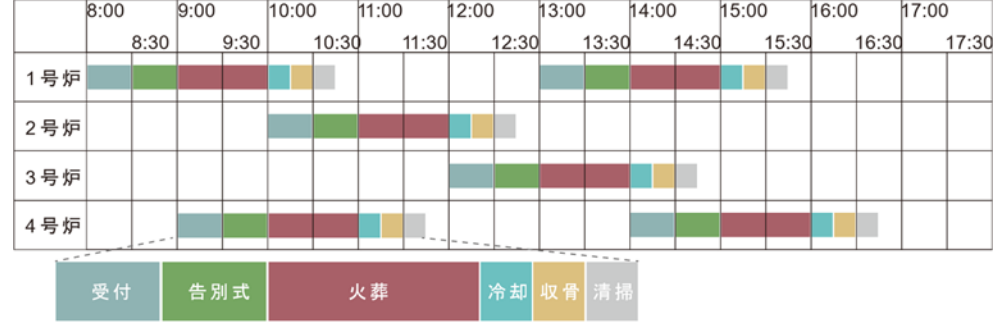
3-5 その他

本事業において、敷地内及び敷地周囲に敷設されている農業用水路、排水路の付替えを計画し、周囲の排水能力向上を図ります。

4 運用想定

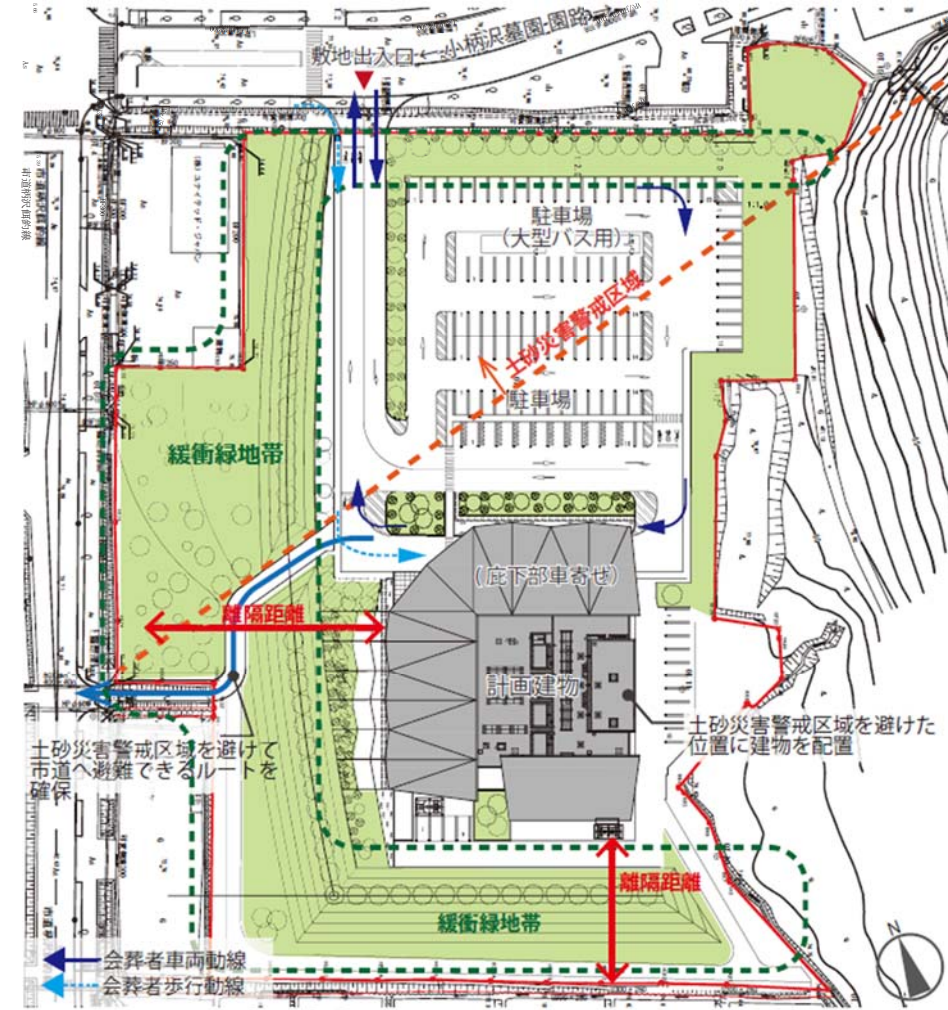
- ・将来の火葬需要や統計予測から必要火葬炉数の再検証を行い、本火葬場は4炉で運用を行う計画とします。
- ・通常の受入件数は既存斎場と同じ6件/日とし、最大で8件/日の想定とします。

1日6件受入れの想定タイムスケジュール



5 配置計画

- ・計画建物は土砂災害警戒区域を避けた位置に配置し、市道への緊急避難路を設けた災害に備える施設配置とします。
- ・会葬者用駐車場は建物北側へまとめて配置し、利便性の高い駐車スペースにするとともに、冬季の堆雪スペースとしても活用できる計画とします。
- ・敷地出入口は小柄沢墓園の園路からとし、市道からのアクセスは災害時等の緊急時利用のみとします。
- ・敷地は南側へ向かって下る傾斜地のため、利便性に配慮した造成を行います。造成に際しては可能な限り、搬出土量の抑制が可能な計画とします。



6 外観計画

- ・施設全体は堆雪型の屋根に包まれた計画とし、冬季の積雪にも安心して利用できる計画とします。
- ・大屋根は折屋根構成による分節化を図り、周辺の建物や山並みに馴染みやすいボリューム計画とします。
- ・車寄せや市道に面する待合エリアは木造化を図り、訪れる会葬者や周辺地域に対し温もりのある印象づくりを行います。



- ・敷地境界沿いには、築山と植栽帯による緩衝緑地を設け、建物とは可能な限り離隔距離を確保することで、敷地内や建物が周囲から見えにくく、自然豊かな風景に溶け込む施設計画とします。
- ・建物は平屋建ての構成とし、高さを抑えた計画とすることで、周囲への圧迫感を低減し、建物の存在が意識されにくい計画とします。
- ・築山上部には中高木を植樹し、目隠し機能と冬季の西風に対する防風林の機能を持たせます。

※パースは建物形状が分かりやすいよう樹木を間引いた図にしています。



8 平面計画

- ・告別～待合～収骨と一連の利用室を専有できるユニット型とすることで、会葬ごとのプライバシーに配慮した計画とします。
- ・コンパクトで効率的な動線計画とし、高齢者をはじめ多様な利用者が快適に過ごせるバリアフリー、ユニバーサルデザインを取り入れた計画とします。
- ・告別収骨室は、30人規模の会葬者がゆとりをもって、告別及び収骨の儀式に臨める広さを確保します。
- ・火葬から収骨まで会葬ごとに完全に専有化できる、1炉に対し1告別収骨室の計画とします。
- ・告別収骨室は、遮音性の高いRC壁や防音壁の採用により静寂性に配慮した計画とします。
- ・一部の告別収骨室、待合室は、大規模会葬に対応できるよう稼働間仕切り壁とし、2室をまとめた1室で利用できる計画とします。
- ・待合室には専用のクロークスペース、トイレを備えた計画とし、1ユニットで完結した時間を過ごせる計画とします。
- ・エントランスホール及び待合ホールからアクセスできる位置にユニバーサルエリアを設け、トイレ、更衣等への利用に配慮した計画とします。
- ・ユニバーサルエリアには、キッズコーナーや授乳室、バリアフリートイレを併設し、誰もが快適に過ごせる計画とします。
- ・管理諸室は、エントランスと火葬炉関連諸室に面した位置に計画し、会葬者への対応と火葬業務の利便性が高い、コンパクトにまとめた効率的な配置計画とします。



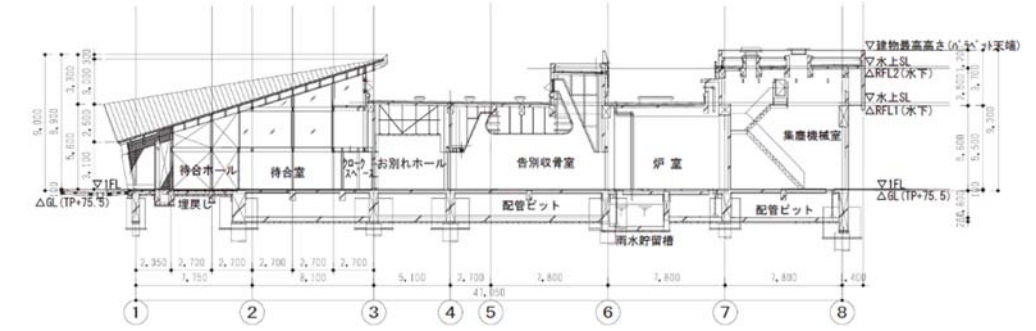
9 内装計画

- ・施設全体は、県産材を活用した木質化を図り、地域の特色を活かしながら、会葬者の気持ちを和らげる温かみのある空間づくりを行います。
- ・色調は、木材や石材と相性の良いアースカラーを基調とし、落ち着いたある色彩計画とします。
- ・緊張感の高まる火葬エリアは、石材や素材感のある左官材等を活用し、厳肅性を演出した内装計画とします。
- ・待合エリアは、木造フレームを活かした内装計画とし、木の温かみと明るく開放的な空間により、穏やかな待合時間を過ごせる計画とします。



10 断面計画

- ・周辺からの見え方に配慮して、炉室、集塵機械室を含めた総平屋の構成とし、建物高さを抑えた計画とします。
- ・最も高さを必要とする集塵機械室を8mに抑え、排気筒を含めて建物最高高さを9.3mに抑えた計画とします。
- ・集塵機械室のボリュームを大屋根で包み隠す断面構成とし、敷地境界に向けて建物高さが低くなる勾配にすることで、周囲への圧迫感を低減します。
- ・車寄せの高さは、大型バスが寄り付くことを考慮した高さ設定とします。
- ・エントランスホールやお別れホールは、天井高さ3.5m程度確保できるように、階高を5.5mとします。



11 環境配慮計画

- ・自然光や中間期の外気冷房など、自然エネルギーを取り入れた環境配慮技術を導入します。
- ・各部の空調負荷を低減する断熱性能などの建築的な配慮と、空間形態に応じた効率的な空調計画により省エネルギー化を図ります。
- ・トイレや散水に雨水再利用を図るなど、水資源を積極的に活用できる環境配慮とランニングコスト低減が可能な計画とします。
- ・緑の木陰による日射抑制、地表面緑化によるヒートアイランド抑制への寄与に加え、周辺の森林環境と連続する景観調和を兼ね備えた緑化環境を構築します。
- ・告别室や待合ホールに自然光を積極的に取り入れ、穏やかな光により会葬者の気持ちを和らげる効果に加え、照明負荷低減を図る計画とします。
- ・待合エリアやロータリー庇の主架構を木造とし、更に内装材にもルーバー材等に木材を活用することで、CO₂排出量低減を図ります。
- ・太陽光パネル(10kw)を屋上に設置し、再生可能エネルギー活用を図ります。

